

ラボの世界

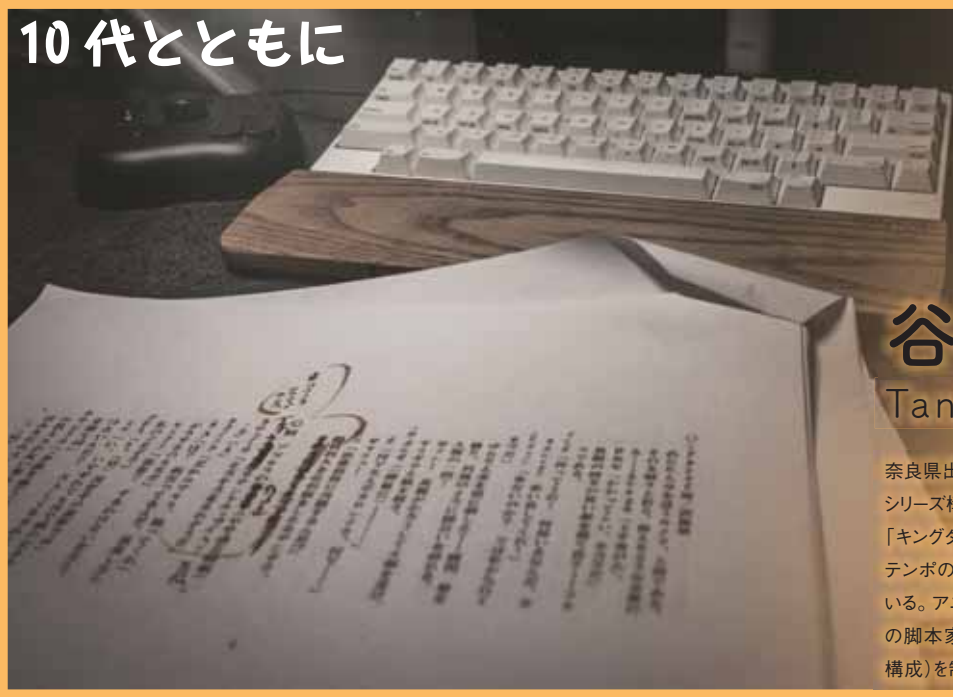
THE WORLD OF LABO

- 01 10代とともに ～コミュニケーションで想像を超えていく
- 04 2026 ラボ中国青少年交流 報告
- 05 2026 夏のラボ国際交流 応援特集
 - ・事前の準備活動 全国で開催中
 - ・未来につながる 国際交流体験
 - ・ラボ・ニュージーランド青少年交流 学校生活紹介
- 09 Go Ahead! SPECIAL! ～中島健太郎氏
- 11 東京言語研究所 春期講座報告
理事会・評議員会報告
Information



3/25～4/3に第36回ラボ中国青少年交流が実施され、上海、西安、北京の3都市をまわりました。北京では日本大使館を訪問。日本文化を紹介する資料室、大使公邸などを案内していただきました。

10代とともに



谷村大四郎

Tanimura Daishiro

奈良県出身。数々の人気アニメ作品を手がける脚本家、シリーズ構成作家。「ゴールデンカムイ」「SPY×FAMILY」「キングダム」などで脚本を担当し、重厚な人間ドラマからテンポの良い会話劇まで幅広い作風で高い評価を得ている。アニメーションの制作進行などを担当したあと、フリーの脚本家として活動。現在は「魔女と傭兵」（シリーズ構成）を制作中。

コミュニケーションで 想像を超えていく

幼少時代の出会いから、脚本家になるきっかけなど、谷村さんが歩いてこられた道すじを穏やかなふんいきで話してくださいました。参加者からの多くの質問に対して、ひとつずついいねに答えていただき、人と関わりながら生きていくヒントをたくさんいただきました。

生まれてからずっと、重たいアトピー性皮膚炎に悩まされていました。そのこともあって、引っ込み思案な性格だったのだと思います。小学生になってもあまり友だちができず、そこまで大げさなものではありませんが、いじめにあったこともあります。3年生のときに、ひとりの明るくておもしろい同級生と友だちになりました。その子のおかげで「自分もこんなふうに明るく過ごしていいんだ」「自分で何かおもしろいことをしてみたい」と思えるようになりました。この友だちとの出会いが、私にとってとても大きかったですね。

その勢いで、中学校では新たな友だちと、人前でするおもしろいことを企画したり、バンドをやったりしました。高校では「文化祭でコントをやりたい」と思いたち、演劇部に「入部して裏方を手伝うので、お芝居の前座にコントをやらせてほしい」と交渉しました。そうしてコントを披露しているうちに、演劇そのものにも興味がわいてきました。高1のときにはじめて演劇の台本を書き、みんなでお芝居をつくり、大会に出場しました。高2のときには地区大会を突破し、県大会に出場することができたのです。県大会では勝ち残ることはできませんでしたが、そのことがとても強烈な経

験となって、大学は演劇学科に入学することに決めました。

挫折したほうが良い

今、脚本家として活動していますが、幼いころからの経験がつながって今があるなと感じます。小学生のころにひとりの同級生と出会って「おもしろいことをしてみたい」と思い、そこから演劇部に入るようになって脚本の執筆をするようになり、大学も演劇学科に進む。そこで学んだことが今の脚本制作につながっています。といっても、もちろん失敗や挫折を味わったこともありました。

小学生のときから塾に通っていたこともあって、勉強は得意なほうでしたし、がんばっていたという自負がありました。高校受験でも、県内の進学校に合格。しかし入学してみると、まわりのレベルの高さに圧倒され、勉強についていけなくなりました。そしてだんだんと学校に通わなくなりました。つらい経験でしたが、「ずっと勉強が得意な子」のまま育つよりも、挫折して、「上にはこんなにすごい人たちがいるんだ」と気づけたことがとても良い経験になったのではないかなと、今は思います。この経験が目線を変えてくれたんです。「まわりより

勉強ができる自分」の目線しか知らなかった私が、「自分よりもすごい人たちを見上げる」ことになったのです。じつはこれも、今、脚本を書くうえでとても役にたっています。

みなさんもこの先、挫折することがなんどもあると思います。でも、挫折や後悔って、したほうが良いと思っています。そういう経験がかならず何かにいきてくるはずだから。自分のてっぺんとどん底は、知っておいて損はないですよ。

演劇からアニメへ

10代のころに憧れた脚本家がふたりいます。

ひとり、好きだったアニメ「機動警察パトレイバー」の脚本を担当していた伊藤和典さん。もうひとり、高校生のときに放送していたテレビドラマ「古畑任三郎シリーズ」の脚本を担当していた三谷幸喜さんです。演劇部の仲間といっしょに、三谷幸喜さんが主催する演劇を観にいったりもしました。このころには、演劇の脚本家をめざすようになっており、大学も三谷幸喜さんが卒業した日本大学芸術学部の演劇学科を選びました。

しかし、業界のことを知っていくうちに、演劇の世界で成功するのは難しい、このま

10代とともに



ま演劇を職業にするのはきびしいと思いはじめました。そんなときに観にいった映画が「ガメラ 大怪獣空中決戦」。この作品にとっても大きな衝撃を受けました。「自分に合っているのはこっちの道かもしれない」と思ったんです。この映画の脚本を担当していたのが、伊藤和典さんでした。自分が脚本を職業にするなら、三谷幸喜さんではなく、伊藤和典さんをめざそうと決め、専門書を買ひこみ、独学で映画の脚本を勉強しはじめました。「伊藤和典になるにはどうすれば良いのか？」を考えると、彼の経歴を調べてみると、はじめはアニメの制作進行というポジションを担当していたということがわかりました。制作進行を経て、アニメの脚本をたくさん書き、40歳前後で怪獣映画の脚本を書かれることになったわけです。

伊藤和典さんになるため、25歳のときにアニメの制作会社に入り、制作進行をすることになりました。

10年ぶりの再会

アニメーションというのは、1カットごとに制作を進めていきます。1話につき、およそ300カットあるのですが、その制作を担う100人以上のスタッフは同じ場所で作業するわけではありません。さまざまな場所で同時進行していく作業の工程管理をするのが、制作進行の仕事です。そして声優さんが声を入れて、音楽や効果音がついてアニメは完成します。制作進行の仕事と、その制作進行を束ねる制作デスクという仕事を、あわせて5年間やりました。制作進行の仕事をしているときに、脚本家として関わってくださったのが小中千昭さんでした。

大学生のときに好きで観ていたテレビに「ウルトラマンティガ」がありました。「この回はとくにおもしろいな」と思った回のスタッフロールにはかならず「脚本：小中千昭」とあり、普及しはじめたばかりのイン

ターネットで小中千昭さんのことを調べてみました。彼は当時としては珍しく、自身のウェブサイトを開設していました。そこで勇気を出して「ウルトラマンティガの脚本おもしろいです。あなたみたいな脚本家になりたいです」とメールを送ってみました。伊藤和典さんになろうと決めていましたが、小中千昭さんも好きだったんですね（笑）。ないだろうと思っていましたが、返信がありました。「がんばってください。ほんとうに脚本家になりたいのなら、おもしろい、あるいはおもしろくないと思った映画の脚本をなんとか探さだして、脚本と映画の仕上がりを、できるだけ見比べて勉強してください」という内容でした。

それから10年後、小中千昭さんと仕事を一緒にする機会があったのです。私は社内で「脚本をやりたい」と、ことあるごとに言ってきたこともあり、脚本打合せに同席させてもらいましたが、毎週の打合せでは緊張してカチコチに固まっていた。打合せを重ねるうちに、少しずつお話しできるようになってきて「じつは10年前にメールを送らせていただいたんです」とお伝えしました。すると翌週の打合せで「先週言っていた10年前のメール、出てきたよ」と言ってくださったのです。そこから、よりお話ができるようになり、食事に連れていっていただいたときに思いきって「脚本を1本書かせてもらえませんか？」とお願いしてみました。小中さんは少し考えたあと、「いいよ」と言ってくださり、脚本家としての道がスタートしました。

突き放すのも、愛

脚本を書くうえでたいせつにしているのは、「これで伝わるか？」と考え続けることです。脚本には文字しか書かれていませんが、次の工程である「絵コンテ」を作る人は、脚本を絵にする必要があります。な

ので、「この書き方で絵コンテをつくる人に伝わるかな？」とつねに考えて脚本を書いています。「脚本は絵コンテマンに渡すラブレターだ」ということばもあるくらいなんですよ。

もうひとつ、脚本家にとってだいじなことがあります。小説家やマンガ家のような作家の方々と決定的に違うのは、いろいろな人の意見を取り入れる必要があるということです。作家は自分の世界観を表現していくものだと思いますが、脚本家は放送局やスポンサー、監督やグッズ制作をしている人などなど、ほんとうにたくさんの人の意見を取り入れながら、いっしょに作品をつくっていきます。つまり、いろいろな人の意見を取り入れながら、書き直すという前提があります。だいじなことは「愛をもって執筆するけれど、愛しすぎない」ということです。愛が強すぎると、自分で書いたものを人の意見によって書き直せなくなってしまいますよね。コツは、書いているときは愛していて、書き終わったら突き放すことだと思っています。

しかし、アニメの脚本を書きはじめたころに、アニメ「XXXHOLiC」の作者の方から言われたことは、20年以上経った今もたいせつにしています。それは、「丹精込めて書いた脚本の『これだけは譲れない』というところだけは、絶対に譲ってはいけない」ということばです。人の意見を受けとめる柔軟さと、自分のなかの確固たるものというのは、両立して良いし、両立しなくてはいけないものだと思っています。

その人は、敵じゃない

脚本家は文字を書くのがメインの仕事だというイメージがあると思うのですが、じつはコミュニケーションが6割なんですよね。自分の書いた脚本を打合せに持っていくと、その場に10名から20名くらいの人

10代とともに

がいて、いろいろなことを言うてくるわけです。「このセリフはどうなんでしょう?」「ストーリーの展開をこうしたほうが良いのでは?」という意見が出たときに、都度反論するのが仕事ではないのです。そのように言う人たちと同じ視点から、ある意味で自分の脚本を客観視して「そうか、そういう考え方もあるのか」「この書き方だと視聴者にこう思われてしまうのか」と受けとめて、次の第2稿、第3稿に反映させていきます。脚本家は、自分だけがおもしろいものを勝手に書けば良いという職業ではありません。よりたくさんの人に楽しんでもらえるよう意識して仕事をしています。プロとして報酬をもらってやっていくというのは、そういうことなのです。

友だちどうしても、「この子、なんでこんなことにこだわっているんだろう?」と思うことはありませんか? そういうときに、相手の立場にたって考えてみると案外理由が見えてくる場合があります。自分のこだわりが友だちに受け入れてもらえないときも、友だち側の立場に視点をぐるっと切り替えてみると、「ああ、たしかに自分の意見は変だな」と気がつくこともあるし、「いや、

どう考えても私のこだわりが正しい」と思うこともあります。まずだいじなのは、相手の目線で見えてみるということだと思いますね。

コミュニケーションが6割と言いましたが、その「コミュニケーション」って何なのかということになりますよね。私は「相手を知って理解すること」だと思っています。相手のことを知るには、相手の話を聞かなくてはならない。自分の思いを相手にわかってほしい場合には、まず相手に興味をもって、相手の話を聞くことから始める必要があります。説得したい相手は敵じゃなくて、味方になってもらわなきゃいけない人なのです。

想像を超えて

アニメーションは総合芸術と呼ばれていて、お話、アニメーション、音楽、声優さんのお芝居、というようにいくつもの芸術があわさっているものです。そうやって多くの人が関わっているものづくりが、私は好きです。私の書いた脚本が、ほかの人の手にわたり、その人の好みやセンスによって、少しずつかたちを変えていく。それをくり返して、さまざまな人の手をわたって

ひとつの作品になっていきます。人と人とのコミュニケーションが、つながっていくんですね。できあがりを見てみると、自分の想像を遙かに超えて、すばらしい作品に仕上がっていることがあります。そういう瞬間に立ち会えたときに、この仕事をやっていてよかったなと思います。

10代へのメッセージ

みなさんの年代は、学校で教わってきた「答えのある問い」を考えることを、だんだんと終えていくころだと思います。この先、「なぜこの人のことが好きなのか」「なぜ自分の意見をわかってもらえないのか」というような「答えのない問い」を、自らに問いかけていくことになります。それができるようになることを「成長」と呼びます。そしてその「答えのない問い」の答えを、自らつくり出していく人のことを「おとな」と呼ぶのだと思っています。と言っても、それはとても難しいことですよ。ほくもまだおとなになっていないと思います。力を抜いて、いっしょに考えていきましょう。

(文責：編集部)

インタビューを終えて

[取材協力]

大阪府、滋賀県、兵庫県、和歌山県のラボ会員

安倍雅子パーティ

●新城 葵(高1) 印象的だったのは、谷村さんは子どものころ、明るい性格ではなかったということです。しかし小学校で出会った良い友だちが内気な性格を変えてくれたと聞き、人との出会いが自分の人生に与える影響の大きさや、新たな人との出会いのたいせつさを感じました。「できるとできないの幅は、あればあるほど得」ということばをつねにもち、前向きに生きていければいいなと思います。

吹原幾代パーティ

●光野麦穂(大学生年代) 谷村さ

んのお話をとおして、作品の制作はきびしい世界だと実感しました。そのなかで自分の信じるおもしろさを生みだしている姿勢がすごかったことや、憧れました。また、幼少期から学生時代のお話がとても興味深かったです。私も就職活動をしていたので、進路の決め方が参考になりました。その時々好きなことを追って、今の仕事につながっている生き方がすごかったなと思いました。

加地亜希パーティ

●西上桜亮(中1) 自分が思う生き方がたいせつだと感じました。

もちろん勉強もたいせつだけど、勉強ばかりしていても人生は楽しくないから。自分は勉強もするけど、楽しい生き方をしようと思います。実際に谷村さんもそういうふうに通じてこられて、立派な仕事についているのすごいなと思いました。

●滝本昇生(中3) やりたいことを直接言うことがたいせつだと思った。谷村さんは直談判をしたから、脚本家になることができた。ぼくも部活などでやりたいことを部長に直接言ってみるなど、自分の意見でみんなを変えていけることもできると思った。今まで知らず知らずのうちに受け身になってしまっていたかもしれないけど、これから、自分の人生をどんどん変えていきたいと思った。

吉田恵美子パーティ

●平古樹莉亜(大学生年代) 脚本家というお仕事のことや、これから生きていくうえでたいせつなことをたくさん教えていただくことができました。なかでも、「(アニメの原作に対して)愛はあるけど、突き放さなければいけないときもある」というような話や、「(人と意見が対立したときに)これだけは絶対譲れないことは、譲ってはいけない」というような話がとくに印象に残りました。これから社会にでるうえでとてもたいせつなことだと感じたので、私のなかでもこのことをたいせつにしていこうと思います。

[取材日] 2026年4月19日

2026ラボ中国青少年交流 報告

☆…第36回ラボ中国青少年交流が3/25～4/3に実施され、参加者7名が上海、西安、北京を訪問。交流校の都合により学校訪問はかないませんでした。例年とは異なるプログラムで中国の「今」を体験しました。

おもなスケジュール

3/25 上海訪問
3/26～28 西安訪問
3/29～4/2 北京訪問
4/3 帰国

西安独特の餃子づくりに挑戦



上海訪問

今潮8弄、豫園、外灘など



西安訪問

兵馬俑、始皇帝博物館、大雁塔、西安博物館など



中国文化体験



中国工芸美術館で螺鈿制作体験

北京訪問

天安門広場、紫禁城、万里の長城、孔子廟、北京科学技術館など



日本大使館表敬訪問

「ひとつしかない地球」を日本語と中国語で披露。公使から「将来、日本と外国の架け橋になるような人物になってほしい」というメッセージをいただいた



中国交流の絆

初期からの交流校・北京市月壇中学の張文生 前校長先生と会食。「これまで月壇中学を訪問したラボっ子たちのごことを思い出します」とおっしゃっていた



参加者の感想より抜粋

3都市それぞれ風景や街並みや雰囲気まったく違って、それぞれに良さがありました。中国の人はみんな、人のため、自分のために一生懸命生きていることや、自分をたいせつにしていることがすごくよくわかりました。席を譲ってくれる方や、いつでも話しかけてくれる店員さんなど、どこに行ってもほんの些細なことでも、人はつながって交流しているんだと感じました。
堤 由菜 高2 (京都府 堤 美千絵P)

参加するにあたって目標が2つありました。今回のプログラムでしか経験できないことをたくさん経験してること、次の世代に中国交流をつなげること。日本大使館を訪れたり、前の校長先生と食事をしたり、名所を回ったり。あとは、日本に帰ってから報告して、少しでもいろんな人が興味をもってくれたら目標達成です。
大野好美 中3 (大分県 大野裕子P)

10日間楽しく過ごせてよかったです。まだまだ知らないことだらけだから、またのきかいに、もっと中国のことを知れたらいいなと思います。ほんっっつと楽しくったし、良いけいけんになってよかったです。中国はとても魅力にみちあふれています。じっさいに中国に行ってみてください。
北山莉緒 小6 (長野県 矢島まり子P)

中国のことは正直嫌いだった。で、いざ中国にくと「ああ、おれは何もわかってなかったんだ」と感じた。中国はご飯はうまいし、みんなしんせつ、安全、ひろい、世界遺産がとて多いか、すごい良いところがある！ でも悪いところもかならずある。日本も良い国だけど悪いところもある！ 悪いところを一方向的にいうんじゃない、互いの悪いところも良いところも認めあい、わかちあえば、互いの良いところももっと出てくるんだと、この交流でよくわかりました。

川村悠進 中2 (静岡県 伊藤敦子P)



帰国時、第35回中国交流に参加した先輩のサプライズ出迎えも。多多感謝！

2026 夏のラボ国際交流 応援特集



☆… 2026年夏、全国から400名を超える参加者が海を渡ります。7月の出発までもう少し。アメリカ、カナダ、ニュージーランド、韓国で、新しい出会いが待っています。

事前の準備活動 全国で開催中



事前活動では、参加者の決意表明、激励メッセージの紹介など、出発までの気持ちを高めていくプログラムもあります

おもな事前活動スケジュール

- ・1月末～2月 親子オリエンテーション
- ・ウインターキャンプまたはスプリングキャンプ参加
- ・1月末～6月に4回の事前活動
- ・一泊ホームステイ
- ・事前合宿
- ・国際交流のつどい・壮行会

参加者一人ひとりの国際交流を有意義なものとするために、各地域で開催されている「事前活動」。国際交流に参加する仲間との交流を通して、発信力、コミュニケーション力、多様性の尊重など、交流にむかう態度とスキルを養っています。

3/28～31

オレゴン国際キャンプ 事前合宿



野外活動体験、装備の説明など、現地での活動を想定したプログラムが開催されました

5/3～5

第39期ラボ高校留学 全国事前研修合宿



アメリカ、カナダに留学する7名が参加。安全管理、先輩の体験談、英語でのプレゼンテーションなどを実施しました

5/16～17

全国引率者合同会議



私たちが引率します

今夏の北米交流、ニュージーランド交流に対応する引率者（チューター・シャペロン28名、カレッジリーダー9名、事務局スタッフ9名）が全国から一堂に会し、引率者の役割と任務を確認。引率上の安全管理についてや、ケーススタディなどの研修を実施しました。みなさんの国際交流が充実するように引率者がサポートします。



未来につながる 国際交流体験

☆…国際交流でのさまざまな体験をとおして、
自分の未来につながる一步を踏みだした先輩ラボっ子より、
これから国際交流に参加するみなさんへのメッセージをいただきました。
みなさんの夏の体験が、次の一步につながりますように。



坂本菜緒 高2 (愛知県 杉本佳代 P)

2025年ニュージーランド交流参加

ニュージーランドでは、毎日が驚きと発見の連続でした。学校の机の高さ、チャイムの音、些細なことでも日本とまったく違い、それらとの出会いがとても楽しかったです。そして気づいたことをホストファミリーに何でも話していました。

ある日の授業中、避難訓練のために教室から出ました。日本では2列に並んで静かに外に行きますが、ここの生徒はずっとしゃべっていました。それが不思議だったとMomに言うと、「Why? なぜ日本では避難訓練中にしゃべってはいけないの?」と聞かれました。私が「calm、冷静であるため」と答えると、Momは「calmの反対はpanic。みんなはパニックだった? 違うでしょ」と。事のよし悪しはさておき、自分の当たり前がそうではないと気づかされました。

国際交流に参加して、このように物事を多角的に見られるようになりました。自分の常識と違うことを知ると、自分の知っている世界が案外狭いとわかります。逆に、今まで解決できなかったことも、新しい見方によって解決し得るということです。だから、「はじめて」を恐れないでほしいです。その姿勢がだいじだと思います。



坂場有紗 大学生年代 (神奈川県 坂場あすか P)

2019年北米交流参加 (アメリカ・ユタ州)

**2024-2025年ラボ高校留学参加
(アメリカ・ノースカロライナ州)**

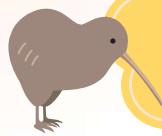
中学1年生の夏に行ったホームステイ。話すことばも見た目も異なる人々との暮らしはとても不思議な感覚でした。ホームシックになったとき、ことばが十分に通じないなかでも懸命に意思疎通を図ったり、小さな楽しみを見出したりするなど、私なりに全力で乗り越えようとしてきました。この経験が国際交流へのさらなる興味・関心へとつながり、留学を決意する大きな後押しになりました。

高校留学では、待っていても誰も見つけてくれない、自分の個性を確立することの難しさ、自己主張をすることのたいせつさを実感しました。数えきれないほど悩んだなかでたいせつだと感じたのは、「自分を分析すること」です。なぜ壁にぶつかっているのか、自分には何ができるのか、何をすべきなのかを考え、行動することで解決につながっていきました。

異文化のなかで生活することは大きな挑戦ですし、うまくいかないこともあると思います。しかし、どんな経験も成長のプロセスです。悩んだ末に導いた自分なりの答えを信じて実践してみること。失敗は怖くありません。やらない後悔のほうがずっと怖い! そのときの勇気が、あとの自分を後押ししてくれます。新しい自分に出会い、今のあなたにしかできないたくさんの経験をしてきてください!



ラボ・ニュージーランド 青少年交流



Whakataki ki te Ora Kura
学校生活紹介

☆… 2002年に始まったラボ・ニュージーランド青少年交流。このプログラムの特徴である学校での生活についてご紹介します。2026年夏は6つの学校に分かれて交流予定です。

ニュージーランド交流の特徴は？

短期留学ができる



ホームステイをしながら、現地の学校に通います。学校には同性・同年代のスクールバディがいて、いっしょに授業を受けながら学校生活を送ります。

ニュージーランドの先住民マオリの伝統文化を学習・体験する機会があります。HAKAを体験できる学校もあります。

マオリの伝統文化を学ぶ



JAPAN DAY (日本文化紹介)



参加者全員で地元の小学校を訪問し、日本文化を紹介する日があります。参加者のコミュニケーション力やプレゼンテーション力のアップにもつながる経験になります。



さまざまなホストファミリー



参加者と同性・同年代の子どもがいる家庭、小さい子どもがいる家庭やリタイアした夫婦だけの家庭などさまざま。欧米やアジア、アフリカなどから移住してきた人も多く、ホストファミリーの人種も多様です。

ホームステイ先では…



平日の日中は学校に通っている参加者にとって、夕食の時間はホストファミリーとコミュニケーションをとりたいせつな時間です。その日の学校での体験や、日本のことなどを話す良いチャンスです。



ある1週間のスケジュール ※学校によって詳細は異なります

ESOL

英語を母語としない人たちのための英語特別クラスESOL (English for Speakers of Other Languages)があります。

Interval

午前中のInterval (なか休み)の時間に、食事をして良いことになっています。イギリスが発祥の文化「Tea time」を体験できます。

	月	火	水	木	金	土	日
1時間目	ESOL	ESOL	遠足	ESOL	ESOL	ホストファミリーと過ごす	ホストファミリーと過ごす
2時間目	ESOL	体育		コンピューター	ESOL		
Tea time				Tea time			
3時間目	家庭科	美術		音楽	体育		
Lunch				Lunch			
4時間目	体育	音楽	理科	ドラマ			
5時間目	数学	歴史	マオリ語	数学			

制服を着用

それぞれの学校で、制服や髪型などのルールが決まっています。参加者は現在使っている日本の制服(冬服)を持っていきます。※制服がない学校に通っている場合は、制服に準ずるものを着用

Lunch

学校にはランチ(サンドイッチ、果物、スナック菓子など)を持参します。ホストファミリーが用意してくれる家庭もありますが、自分でランチを作ることも。学校によっては売店もあります。

House 各学年が縦割りで構成されたHouseという制度があり、参加者はスクールバディと同じHouseの一員になります。各HouseにはHouse Colorがあり、イベント時にはHouse Colorのものを身に着けたりします。

2026 交流予定校 紹介

参加者が通う学校はいずれも留学生を受け入れる体制が整っていて、留学生担当の先生やスタッフがいます。学校では、「スクールバディ」といっしょに授業を受けます。多くの国から留学生を受け入れているため、ニュージーランド人だけではなく、他の国の留学生とも仲良くなれます。

※学校によってはホストとスクールバディが同じ場合もあります
※学校は生年月日をもとに現地団体が決定します



① Kati Kati College

カティカティ地域に建設された3つの学校のひとつとして1879年に開校。1966年に、7年生から13年生までの学校に改編された。
★House紹介=MacMillan, Gledstanes, Stewart, Mulgan



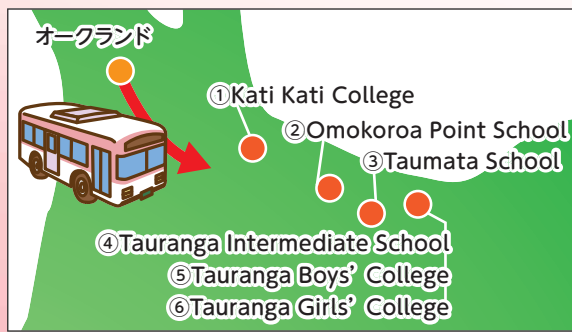
④ Tauranga Intermediate School

1958年開校の男女共学の学校。Safety、Team、Achieve、Respect、Sense of humour の「STARS」という価値観をたいせつにしている。
★House紹介=Kahikatea, Manuka, Matai, Rata, Totara, Kauri, Miro, Tanekaha, Tawa, Rimu



② Omokoroa Point School

1年生～8年生までを対象とした学校。“Nurturing Today, Empowering Tomorrow.”をめざしている。
★House紹介=Kaimai, Matakana, Motuhua, Rangiwaia



⑤ Tauranga Boys' College

1958年開校の男子高校。在籍生徒数が2,200名を超える国内有数の規模。もともと男女共学のTauranga Collegeとして1946年に開校し、その後、男子校と女子校(現在のTauranga Girls' College)に分けられた。
★House紹介=Freyberg, Halberg, Hillary, Ngata, Ngarimu and Rutherford



③ Taumata School

2019年開校の体験学習を重視した学校。自主学習や個別指導に適した小さいスペース、グループ学習に適した中規模のスペース、仲間との交流を促す広いスペースなど、教室の配置にも特徴がある。
★House紹介=Taratoa, Te Kiri Karamū, Tuaia, Puhirake



⑥ Tauranga Girls' College

1958年開校の女子高校。“Empowering tomorrow's women”をビジョンに掲げている。2024年まではTauranga Boys' Collegeと同じ「ミュロンの円盤投げ」をモチーフにした校章だったが、2025年から新しいモチーフになった。
★House紹介=Mansfield, Batten, Sheppard, Whina, Te Auetu

Kia pai tō marama!



ことばを超えて、 人と向きあうということ

中島健太郎

日本赤十字社国際部 国際救援課



はじめてひとりで日本語の通じない環境に飛び込んだのは、中学1年生で参加したラボの国際交流でした。当時は中学校で英語を習い始めたばかりで、ラボで覚えたセリフを少し使える程度の語学力での参加でした。

それでも、伝えたいことは当然あります。辞書を指さしたり、身振り手振りを交えたりしながら、四苦八苦してコミュニケーションをとろうとしました。そうしたなかで、ホストファミリーが辛抱強くこちらの意図を理解しようとしてくれた姿勢は、今でも強く印象に残っています。



その後、高校3年生のときには、アメリカ・ミシガン州で1年間留学する機会にも恵まれました。この頃になると、ことばの面での不安は以前より少なくなっていました。それ以上にたいせつなことに気づかれる出来事がありました。

歴史の授業で、日本の過去の行動について「なぜそうしたのか」と問われたのです。クラスのなかで日本人は私一人だったため、「当然答えられるだろう」という前提での質問だったのだと思います。しかし、私はその場で即答することができませんでした。

この経験を通じて、「ことばが使えること」と「コミュニケーションがとれること」は本質的に異なるのだと感じました。共通の言語で話せることは、確かにコミュニケーションを円滑にします。しかし、自分のなかに伝えるべき考えや意見がなければ、コミュニケーションは成立しません。

その後、自分なりに調べ直し、あらためてクラスのなかで説明する機会をもらいました。クラスメイトは私の発言を一方向的に否定することなく、それぞれの立場から意見を交わしてくれました。立場は異なっても根底にある思いは共通していること、そして「違い」はアプローチの違いであることを実感しました。



この経験は、自分にとって「伝える」ということの意味を考える大きな転機となりました。

さらに、留学先での経験はコミュニケーションに対する気づきとどまらず、現在の仕事に就ききっかけにもつながっています。滞在していた町では、大規模な商業施設の開業により地域のように急激に変化し

ていくのを目の当たりにしました。この経験から、人の生活や経済活動が地域に与える影響に関心を持ち、大学では地理学を専攻しました。講義のなかでは、地震や洪水などの災害が社会に与える影響についても学ぶ機会がありました。

就職先を考える際には、「地域のために貢献できること」と「多くの人共感できる共通の価値を有していること」をたいせつにしたいと考え、縁あって日本赤十字社に入社しました。

これまで、おもに病院の管理部門で働きながら、災害時には国内の地震・洪水などの救護活動に加え、ネパールやバングラデシュでの国際救援活動にも従事してきました。また、直近ではマレーシアにある国際赤十字・赤新月社連盟において、アジア大洋州38カ国で災害が発生した際の支援計画の策定、調整業務にも携わりました。

大規模な災害では、国を越えた支援が必要となり、多くの関係者との調整が求められます。現場では誰もが「被災者のために力になりたい」という強い思いをもっていますが、その一方で文化や考え方の違いを調整することも不可欠です。そのような場面で私がたいせつにしているのは、高校留学の際に感じた「立場の違いはあっても、根底にある思いは共通している」という感覚です。赤十字においては「苦しんでいる人を救う」という共通の目的があります。同じ目的にむかう仲間として意見を交わすなかで、課題は乗り越えられると信じ、日々の業務に取り組んでいます。

現在は本社の国際部において、中東やバングラデシュでの事業などを担当し、長期化・複雑化する災害への対応に携わっています。文化や背景が異なる関係者とのコミュニケーションにおいては、違いを理解しようとする姿勢を意識しながら業務にあたっています。

じつは、国際交流や高校留学に参加した当時は、現在のような仕事に就くことは想像もしていませんでした。しかしふり返ってみると、そのときの経験が種となり、さまざまな経験を経て、今になって芽を出しているのだと感じています。

このような私がみなさんにお伝えするとすれば、それは「みなさんにも、自分のなかにひとつでも多くの種をもってほしい」ということです。どの種が芽を出すのかはわかりませんが、何十年後かにふり返ったとき、その意味に気づく瞬間がきっと訪れるはずですよ。

そしてその種は、やがて誰かのために役立つ力へと育っていくはずですよ。

(愛知県・佐藤登紀子パーティ/京都府・上岡裕子パーティ OB)



赴任先のマレーシアでは、イスラム教徒を中心に、ヒンドゥー教、キリスト教、仏教など多様な宗教や民族の人々が互いを尊重しながら暮らしていました。写真はヒンドゥー教の聖地であるバトゥ洞窟です。

春期講座報告

東京
言語
研究所

4月11日、12日の2日間、「理論言語学講座への誘い」を趣旨として春期講座がオンラインで開催されました。

今年度、理論言語学講座を担当する16名の講師が登場。受講者数は116名で、日本全国、スペイン、オーストラリア、メキシコ、韓国、台湾からご参加いただきました。この中から多くの受講生が今年度の理論言語学講座を受講しています。

11日 土

- **日本語文法理論**
動詞基本形は何を表すのか
(川村 大 東京外国語大学教授)
- **調音音声学**
(中川 裕 東京外国語大学名誉教授)
- **社会言語学への招待**
(嶋田珠巳 明海大学教授)
- **認知言語学 構文と談話**
(大堀壽夫 東京大学名誉教授)
- **実験音声学**
(田嶋圭一 法政大学教授)
- **意味論** (酒井智宏 早稲田大学教授)
- **言語哲学** (峯島宏次 慶應義塾大学教授)
- **生成文法II**
生成文法理論における記述と分析
(平岩 健 明治学院大学教授)

12日 日

- **英語史入門** (堀田隆一 慶應義塾大学教授)
- **生成文法III 理論の背景となる考え方**
(岸本秀樹 神戸大学名誉教授)
- **認知言語学**
'copula'としての「ナル」とその周辺
(池上嘉彦 東京大学名誉教授)
- **語用論 なぜ失言や誤解をしてしまうのか**
(松井智子 中央大学教授)
- **言語類型論 日本語は珍しい言語か?**
(長屋尚典 東京大学准教授)
- **日本語文法理論 少し変な文の意味を理解する**
(天野みどり 大妻女子大学教授)
- **心理言語学 はじめての言語獲得研究**
(杉崎鉦司 関西学院大学教授)
- **形態論・語形成論 英語語形成の世界**
(長野明子 静岡県立大学教授)

一般財団法人ラボ国際交流センター 理事会・評議員会報告

第55期(2026年4月1日～2027年3月31日)事業計画・収支予算を主たる議案とする(一財)ラボ国際交流センター理事会(理事11名、監事1名)が3月5日に、評議員会(評議員9名、監事1名、理事3名)が3月19日に、第54期(2025年4月1日～2026年3月31日)事業報告・収支決算を

主たる議案とする理事会(理事11名、監事1名)が5月21日に開催されました。会議は対面とオンライン併用でおこなわれ、すべての議案は全員異議なく議決されました。定時評議員会(評議員9名、監事1名、理事3名)は6月10日に予定されています。

Information

※詳細については東京言語研究所ウェブサイトに掲載します。 <https://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

東京言語研究所

<2026年度 第1回公開講座のご案内>
演題：メタフォリカル・マインドとクリティカル・マインド

講師：楠見 孝 (京都大学名誉教授)
日時：7月11日 14:00～17:00
受講形式：オンライン

<2026年度 理論言語学講座のご案内>

◎前期 5月11日より10週間(終了日は課目によって異なります)
※祝祭日は休講

認知言語学／実験音声学／生成文法／言語学概論／形態論・語形成論／日本語文法理論／心理言語学

◎夏期集中

日時：7月31日～8月2日 社会言語学
講師：嶋田珠巳 (明海大学教授)

日時：8月7日～9日 言語類型論
講師：長屋尚典 (東京大学准教授)

日時：8月14日～16日 意味論の基礎
講師：酒井智宏 (早稲田大学教授)

◎後期 10月5日より10週間(終了日は課目によって異なります)
※祝祭日は休講

認知言語学／語用論／生成文法／言語学概論／調音音声学／日本語文法理論／言語哲学／語順選好の認知脳科学／英語史入門

◎秋期集中

日時：10月10日～12日 認知言語学
講師：西村義樹 (東京大学教授)